



## まきまき花巻への想い😊

花巻につながる人を増やしていきたい、という想いから、「人を巻き込んでいく」という意味を込めて「まきまき(巻き巻き)」と名付けました。つながることが増えることで新しい場やプロジェクトが増え、花巻市の魅力になってしまい」と願っています。



## 編集長紹介

二度の飯と官沢賢治さん「好き」という理由で花巻に移住した者として、まきまき花巻の編集長を務めています。まだ未熟者ですが、花巻のいいところをもっともっとPRしたいという想いだけはすこぶるあります。伸びしろは誰よりも大きいです。

花巻市地域おこし協力隊  
シティプロモーション担当の塩野です。



### 問合せ先

花巻市定住推進課  
TEL 0198-24-2111 [代表]

発行 2018年12月



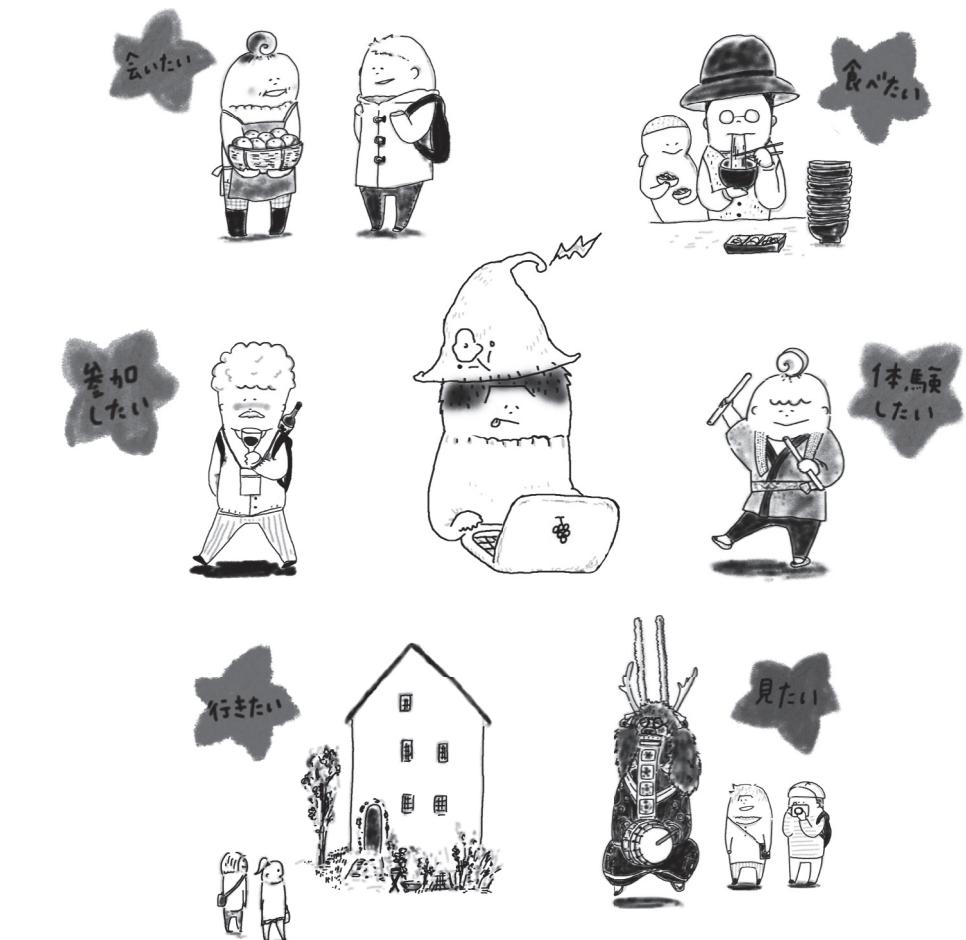
WEBサイト



makimaki hanamaki

# まきまき花巻

[makimaki-hanamaki.com](http://makimaki-hanamaki.com)



# まきまき花巻とは

市民ライターと呼ばれる、花巻に縁のある方、地元の学生さん、地域おこし協力隊などが花巻のディープなスポットやヒト、モノ、イベントを紹介しているサイトです。花巻市は4つのエリア、花巻、東和、石鳥谷、大迫があり、それぞれ魅力が沢山あります。集まった記事は、「見たい」「食べたい」などのカテゴリーに分けて紹介されています。花巻観光のお役立ちや、地元の方の新たな発見にもなるでしょう。

## 編集長のおすすめ記事

菅原次郎

currybar ダイヤモンドヘッドカレーだJ

花巻市高木第10地割30-3 TEL:090-4557-1516  
営業時間:11:30~15:00 定休日:火曜日  
HP:<http://currydaj.jp>



様々なイベントごとにキッチンカーでカレーを提供しているカレーだJは、岩手県内で有名な存在になつた。笑顔を絶やさず、いつも一生懸命なカレーだJのジローくんは、たくさんのヒトから愛される存在だ。

そのジローくんが、何を思ったのか「花巻に海の家を作る」と突然表明し、古い店舗物件を借りて自ら手を入れ、「curry bar ダイヤモンドヘッド」を開店させたのは9月。海がない花巻になぜ海の家だったのだろう。

高校を卒業した後、4年ほど大工見習いをしていたジローくんが仕事を辞め、沖縄や首都圏に「放浪(本人談)」に出たのは、1冊の本との出会いがきっかけだったという。

「もう休みの日だけが楽しみで、仕事が嫌で嫌でたまらなかつたんですよ。そんな時にこの本に出会いました。特にこの帯に書いてある『放浪しちゃえば?』という言葉がガツンきました。『そっか、辞めちゃってもいいんだ』と」

沖縄でコミュニティ施設の建設を同世代の仲間たちと担つたり(大工経験が活きたとのこと)、千葉や東京で飲食店でアルバイトしているうちに出会ったのがスパイス。カレー作りの面白さを知り、オリジナルカレーを作ったりしているうちに、当時勤めていたバーのオーナーから「どうせ屋間は店閉めてるから、その時間帯使って自分のカレー出せば?」と勧められ、店名も「カレーだJ」と名付けてもらったとのこと。当時から作っていたのが今もカレーだJの定番メニューと

なっているレモンカレーだったとのこと。1年ほど東京で腕試ししてから彼は花巻に帰郷する。「もともと、いすれば帰ってくるつもりだったので」と言いつつ、何のツテもない。知人の店でアルバイトしながら金を貯め、キッチンカーを手に入れたのが2014年だった。そこから今に至るカレーだJキッチンカー営業となつた。

さて、若い頃の彼の心を動かしたのは本だけではなかった。「ドラマの『ビーチボーイズ』にめっちゃハマったんですよ。あれ見て『いつか必ず海の家を作るぞ』と思い続けてきたんです(笑)」

イベント出店がない時のカレーだJの固定営業地となった場所に、まずは休みどころ『どんぐりドーム』を作り(ここでも大工時代のスキルや道具が役立つ)、満を持して海の家を作り始めたのが今年。できあがつた海の家の名前は、もちろんビーチボーイズから取つた『ダイヤモンドヘッド』だ。不思議な雰囲気が存在感たっぷり。「まだまだ手を加えるところたくさんあるんですけど(笑)ともかくここで海の家を営業できることが嬉しいんですよ。もっと居心地よくしていって、たくさんの人たちが会って、交流できる場になればと思ってます」

大工見習い時代を含め、人生に無駄なことは何もない。つい先日入籍した奥さまと一緒に、ジローくんはまだまだ夢を追い続ける。【ライター 北山公路】



中野由貴

花巻と宮澤賢治ファンの料理研究家。絵本・童話・食・宮澤賢治をテーマに創作、研究、執筆などを行っています。著書に『宮澤賢治のレストラン』『宮澤賢治お菓子な国』(平凡社)、『にっぽんたねとりハンドブック』(共著・現代書館)ほか。宮澤賢治学会会員、希望郷いわて文化大使。兵庫県在住。花巻市民ではありませんが、イーハトーブ花巻出張所@兵庫(勝手に命名)から参加させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

伊藤 友季

花巻生まれ。賢治の広場のスタッフをしています。ふるさと遺産研究所の調査員として、花巻の知恵や記憶などを集める投稿型ウェブサイト「花巻物語事典」も運営しています。

岡田 芳美

千葉県に生まれ、すぐに両親のJ・Iターンにより、岩手県花巻市東和町へ。2016年8月、自身もJターンにより、「花巻市地域おこし協力隊」に着任。広報担当として「花巻」をPRする日々。お気に入りは花巻の「時報」。朝7時の「精神歌」、正午の「花巻市民の歌」、そして特にランニング帰り、満天の星空を見上げながら夜7時の「星めぐりの歌」を聴く瞬間が好きです。

飛世かおり

埼玉県出身。2018年8月、地域おこし協力隊として花巻市へ移住。花巻産ワインPRの活動中。趣味はカフェめぐり、ヨガ、音楽。

鈴木 寛太

1991年東京都出身。東京出身の両親のもと、大学生になるまで田舎を持たずに育つが、2011年3月に発生した東日本大震災以降、大学のボランティアプログラムで、繰り返し岩手県を訪れるようになる。大学卒業後、一度は神奈川県で就職するも、岩手への想いがつのり、2015年8月、地域おこし協力隊として花巻市に移住。大迫(おおはさま)地区で、毎年減少が続くぶどう農家の支援や学生ボランティアなどの企画・調整を行つてゐる。

北山 公路

出版プロデュース、企画・編集のフリーランス。花巻に生まれ育ち、今も花巻在住。東京の出版社の仕事と地元の仕事半々を花巻でこなす。2017年春から「花巻まち散歩マガジン Machicoco」を創刊し、隔月発行継続中。

